

怨霊菅原道真と大朝日岳の龍（まとめ）



●朝日岳のふもと山形県大江町黒森の雷神社（現在は廃神社）には、火炎をまとった龍が清涼殿を襲う細長い絵馬が飾られていた。中央にはおそらく何も知らずに宴に興じる藤原家が。左には菅原道真公らしき公家がニコニコしながら天拝山の上に浮かんでいるように見えた。道真公そして菅原一族は大朝日岳の龍を使って清涼殿に雷を落とし、藤原家を襲ったのではないか…

祭祀族の菅原一族は、大朝日岳の神気を使って帝と平安京を護る祭祀線を施した。道真公は右大臣にまで上りつめるが、左大臣藤原時平の讒言により太宰府に左遷させられた。2年後に道真は亡くなった。妻も息子も娘も亡くなった。おそらく暗殺されたのではないか。道真は祟り神となった。

道真公が太宰府左遷の折、山形県朝日町大谷には、道真の側室一統が移り住んできた。大谷は大沼浮島や金輪寺を拠点とする朝日嶽修験の地。朝日嶽修験は道真と同じ出雲族の役小角が開いた。国の安寧のために祈っていた修験者たちは道真が不当な扱いで亡くなったことを知り、無念を晴らすべく報復することを決めた…



天拝山の上に霞に乗って浮かぶ道真公



宴に興じる藤原家



火炎をまとった大朝日岳の大龍が襲う

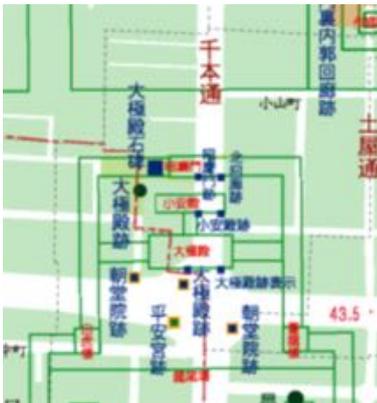
20年前にそんな仮説を立て、取り憑かれたように祭祀線探しに没頭してきたが、ついに決定打とも言える祭祀線を見つけることができたので併せて全容をまとめてみる。



1. 平安京の護り



■市ノ瀬日吉神社 →→519.205km→→平安京大極殿←←519.205km←←大朝日岳（三角点）



大極殿の中央の位置



市ノ瀬日吉神社からの距離



大朝日岳三角点からの距離

市ノ瀬日吉神社

御祭神 猿田彦命

最澄は、延暦二十四（八〇五）年、唐から帰朝の折に筑紫で最初の天台派寺院たる背振山東門寺を開基。

これを比叡山延暦寺に移した時に、その守護神としてこの山王神猿田彦命を勧請して滋賀県に日枝神（日吉大社）を創建したと言う伝説が残っている。福岡県筑紫郡那珂川町



平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年（793年）の1月、和気清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。

「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ「大極殿」の意である。京都市上京区小山町千本丸太町交差点

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に**役行者が参籠修行し開山した**という。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると**朝日嶽大富権現**は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。



山と溪谷オンラインより抜粋

●三処とは、大朝日岳（大富）と、ほぼ同距離に位置する・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。朝日と付く地名は、出雲族が昇る太陽を遥拝した場所に付けられたとされる。



●筑前国（福岡）は古代出雲王家分家の宗像氏が支配していた。日吉神社の祭神 猿田彦命は出雲三神の一人。大朝日岳は出雲族が朝日を遥拝した聖なる山。平安京大極殿は出雲族の聖地に置かれ護られていた。詳細は別頁「平安京大極殿と大朝日岳」をご覧ください。

2. 中ノ島と天拝山

●日吉神社のとなりの中ノ島。こういう中洲の島は、熊野本宮跡や諏訪大社春宮浮島社のように出雲時代の聖地。伊勢神宮の瀧祭宮も元々は中洲にあったと聞いた。中の島はナーガ（竜蛇族）の島とも読める。ここにもきっと浮島神としての弁財天や龍神などの瀬織津姫系の神様がいらしたはず。隣の日吉の太陽系の神と陰陽の関係で祀られていたのではないだろうか。古代の神様は夫婦神で祀られることが多かった。試しにここから大極殿にラインを伸ばしてみた。すると天拝山の山頂付近をラインは通って驚いた。

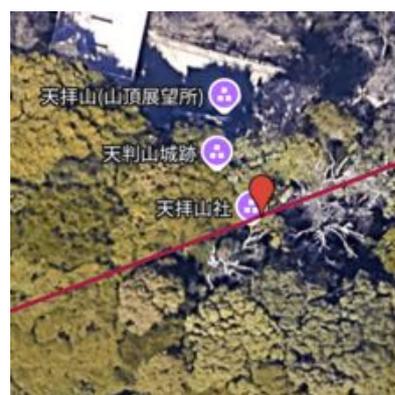
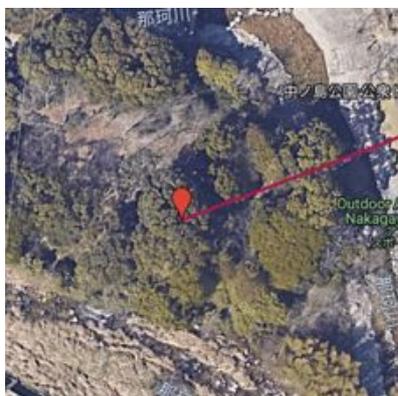


■中ノ島公園 →→→ 天拝山→→→ 平安京大極殿（中央）

●後日、福岡を訪れた際に、波動を手の平で感じることでできる友人に動向してもらい、中ノ島の一番のエネルギースポットを探してもらった。友人はまっすぐに進み「ここはビリビリくるよ」と。すると地面に無数の根を放射状に広げている太い幹が7本の大楠があった。御神木と呼ぶに十分な迫力を感じた。そして、ここから川原に向けて特に感じるという。樹齢はおそらく100年ほどと思うが、大地の波動が噴き出しているのもこのように迫力ある木に育ったらしい。帰宅して、さっそくその大楠を写真地図で確認して大極殿とラインをつなぎ直してみた。すると、見事に天拝山の山頂にある天拝山社を通った。鳥肌が立った。神社前には道真公が天に向かって拝んだという「おつま立ちの岩」があるらしい。



詳細は別頁「朝日嶽修験を使い藤原家を襲った菅原道真公」を。那珂川市文化財課様、ぜひ中ノ島公園の発掘調査をお願いしたい。



■中ノ島公園 大楠→→→ 天拝山社（天拝山頂）→→→ 平安京大極殿（中央）

天拝山・天拝神社

菅原道真公が太宰府に左遷されたのは延書元(901)年で、その3年後、悲運の中に病死しました。名所天拝山は、自分の無実を天に訴えるため、有余日間、武蔵寺境内の「紫藤の滝」にうたれて身を清め山頂に登って七日七夜、岩の上に爪立って祈り続けました。すると天から「天満自在天神」と書かれた尊号がとどいて、願いが成就されたということです。古い呼びかたの「天判山」は、その後天拝山と呼ぶようになったと伝えられています。標高258メートルの山頂には祠があり、近くに菅公の「おつま立ちの岩」(又は天拝岩)があります。石の上に菅公の足型があるといわれますが、見たところわかりません。太宰府天満宮の秋の神幸式神輿が配所の榎社に下る夜(9月22日)、祠前がかがり火が焚かれます。山麓の大門地区の人々が菅公をしたって、代々心尽しの「迎え火」の行事を受け継いでいるのです。福岡県筑紫野市

中ノ島公園 自然にできた中洲をそのまま活かした公園。福岡県那珂川市

3. 平安京の鬼門 (怨霊 早良親王)

●平安京は大極殿の鬼門に怨霊早良親王を祀る崇道神社を置き守りとしている。天然痘の神でもある氷室神社を同距離に置ききれいな正三角形の祭祀線が作られている。

詳細は別頁「平安京の鬼門」をご覧ください。



■ 氷室神社 7.455km ←←← 平安京大極殿 →→→ 崇道神社 7.455km

■ 崇道神社

785年(延暦4年)9月長岡京造宮使であった藤原種継が暗殺された事件に連座したとされる早良親王(崇道天皇)の霊を慰めるため貞観年間(859年~877年)に創建されたという。1915年(大正4年)に近隣にあった式内社とされる出雲高野神社・伊多太神社・小野神社の3社が合祀された。

京都には、他に藤森神社や上御霊神社にも崇道天皇が祀られているが、崇道天皇のみをご祭神とするのはここだけ。

京都府京都市左京区上高野西明寺山34



●大極殿から崇道神社に向かう鬼門ラインには安倍晴明が式神を隠していたとする一条戻橋もある。では、この鬼門のラインをそのまま丑寅(東北)伸ばせば、牛の角を生やして虎のパンツを履いた鬼がいるということになる。すると…



■ 平安京大極殿 →→→ 一条戻橋 →→→ 崇導神社 →→→ 大沼浮島 出島（弁天島）

●朝日岳修験の拠点 大沼の小さな弁天島にピンポイントでぶつかった。またもや鳥肌がたった。鬼は朝日岳に住むまつろわぬ民の蝦夷だった！

■大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大門寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。天平 11 年（739）行基が訪れ浮島の数 66 を日本国の数にたとえ国名を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。



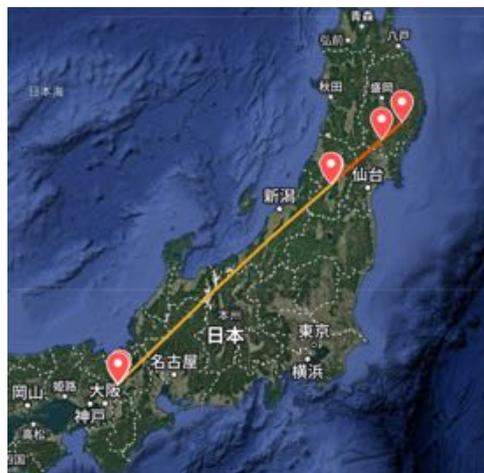
自由に動く浮島（手前）と動かない出島（奥）

山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。

●しかし、よく考えてみたら山形県南部は 708 年には平定されて出羽国となっている。早良親王とともに、過去の鬼として平安京を守らされているようだ。鬼はもっと先にいる。もしかしたら平安時代に鬼と

して戦っていたあの場所かもしれない… さらにラインを東北に伸ばしてみた。やはりそうだった。鳥肌は止まらない。



■ 平安京大極殿 →→ 一条戻橋 →→ 崇導神社 →→ 大沼浮島 弁天島 →→ 奥州市 →→ 遠野市

●アテルイ・モレと坂上田村麻呂の戦いの場であり、安倍家と源氏の戦いの場でもある岩手県奥州市を経て、早池峰山のふもと遠野市に至った。やはり鬼は、東北に残っていた「まつろわぬ民」蝦夷の出雲王国「日高見国」だった。大沼の浮嶋稲荷神社の年表には「源頼義・義家（1091）には調伏の祈禱を行う」とあるが、残念だがこれは「源頼義・義家の前九年の役（1091）には調伏の祈禱を行う」が正解だろう。同じ時に近くの大谷白山神社には源頼義が武運長久を祈願したと伝わっている。



この祭祀線に限らず、京都・奈良からの祭祀線の多くは朝日岳と早池峰山に向かっている。まるで東北を抑えつけ、東北の自然エネルギーを吸い取るが如くに感じる。

4. 天拝山と祝瓶山（朝日山系）

●さて、次に考えたのは落雷事件だった。直接雷が落とされたのは大極殿ではなく清涼殿。もしかしたらそのための祭祀線があるのではないかと。そして本当に見つけてしまった。



■天拝山荒穂神社 磐座→→ 511.299km →→ 清涼殿 →→ 511.299km →→ 祝瓶山（朝日連峰）



■天拝山荒穂神社

祭神 五十猛命 福岡県の説明板『筑前続風土記』には、荒穂神社は、現在佐賀県三養基郡基山町宮浦にある荒穂補明神を招いたもので、一説にはニニギノミコトを祭神とするが、本来は五十猛命であるとされている。また宮浦荒穂明神が一夜のうちに馬上空を飛んで、この岩間に鎮座したともいわれている。筑紫野市の説明板『筑前続風土記』には昔、宮浦の荒穂明神は城山（基山）の上に坐り、基肆城をとりまく山々に五十猛命が祀られたことがわかる。社殿の上部に磐座が見える。何故、中腹以上で頂上でもない所に神社があるのかが不思議であるが、かっこの磐座があるので、ここが神祭の場となったのであろう。



ブログ「まにまに。」さんより写真拝借。拝殿が岩にめり込んでいる。

■祝瓶山（いわいがめやま）

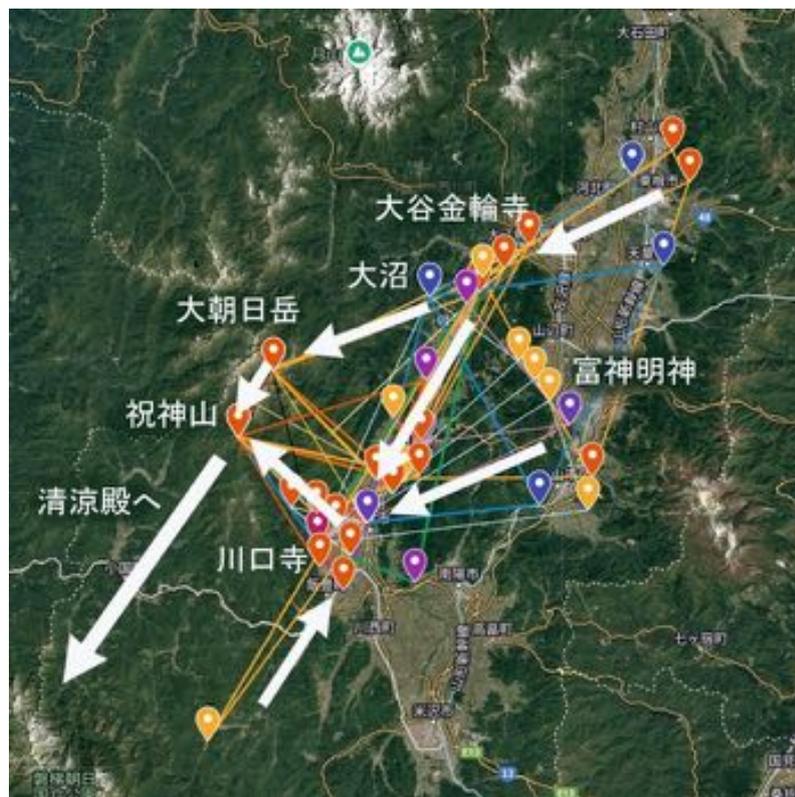
祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は1500mにも満たないが、岩稜が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。山頂には、宗教色の薄い朝日連峰の中で珍しく小さな石祠と鉄鳥居がある。



サイト やまがた山さんより拝借

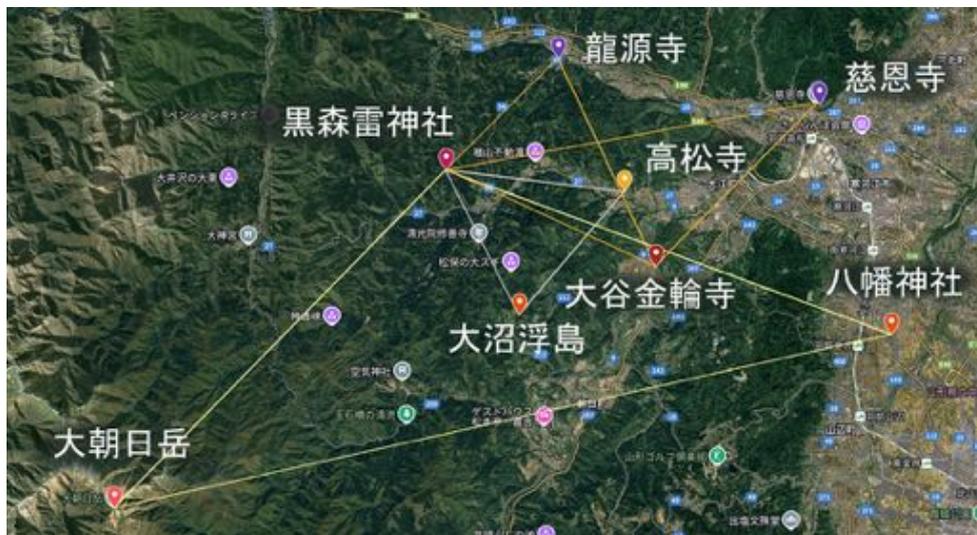
●荒穂神社は後方の磐座がご神体となっている。天拝山の祭祀場だったらしい。そして大朝日岳より少し低いけれどピラミダルな尖った山容の祝瓶山にも山頂付近に祭祀場跡が見つまっている。ここに大沼浮島や大谷金輪寺など朝日岳修験に関わる多くの寺社より祭祀線のシフトを組み、神気を祝瓶山に集め祈り、大朝日岳の大龍を清涼殿に放ったのではないか。

詳細は別頁「道真公の無念を晴らす朝日嶽修験 祝瓶山」をご覧ください。



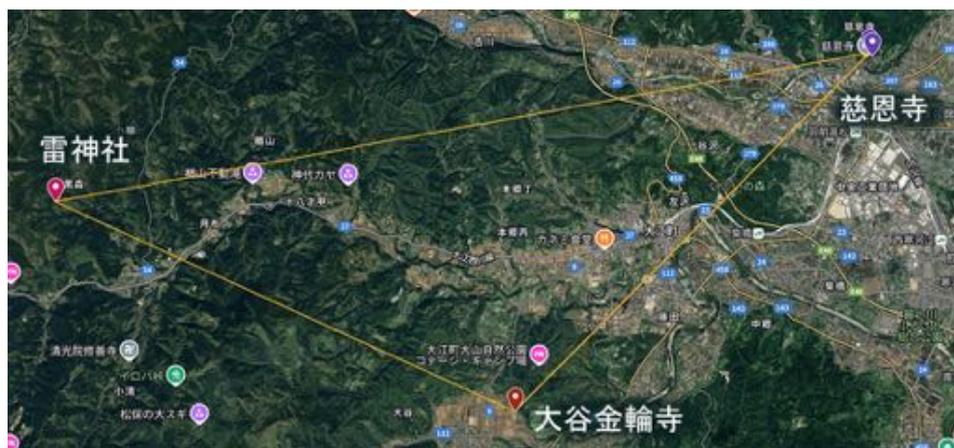
5. 黒森雷神社

●大朝日岳の龍神が平安京を襲う絵馬のあった黒森雷神社の祭祀線を調べてみた。



- 達磨八幡神社 →→19.437km→→黒森雷神社←←←19.437km←←大朝日岳
- 黒森雷神社 →→6.678km→→大沼の浮島（弁天島）←←←6.678km←←高松寺
- 黒森雷神社 →→9.449km→→大谷金輪寺←←←9.449km←←龍源寺

●祭祀線は四つ見つかった。大朝日岳や大沼出島、大谷金輪寺と繋がった。西川町沼山の龍源寺は大谷の菅原（白田）一族の分家に移り住んだ土地なので辻褄が合う。しかし、どれもわりと新しい歴史。一つだけ興味深い祭祀線が見つかったのが龍源寺とも同距離になる慈恩寺である。



- 黒森雷神社 →→9.449km→→大谷金輪寺←←←9.449km←←慈恩寺 宝蔵院・華蔵院

■ 慈恩寺

行基によって見い出され、聖武天皇の勅によって創建したとされる。その後、鳥羽天皇の勅で再建され、後白河法皇と源頼朝によって山号を与えられた。平安時代は荘園領主である藤原摂関家から、鎌倉

時代から室町時代にかけては地頭・寒河江大江氏の庇護を受け、寒河江大江氏が滅ぶと最上氏や江戸幕府によって寺領を認められた。

江戸時代には東北随一の御朱印地を有し、院坊の数は3ヵ院48坊に達した。修験による祈願寺として御朱印地を拝領していたため檀家を持たず、明治の上知令により一山は困窮して帰農する坊が続出した。現在は3ヵ院17坊を伝える。

本尊は弥勒菩薩で、脇侍として地蔵菩薩、釈迦如来、不動明王と降三世明王を配する日本国内でも珍しい五尊形式である。創建当初は八幡大菩薩を鎮守神として祭っていたが、時代の変化とともに法相宗、真言宗、天台宗を取り入れ、現在は天台宗真言宗兼学の一山寺院として慈恩宗を称する。

慈恩寺は3ヵ院48坊からなる一山寺院を形成し、鎮護国家、除災招福を祈願する寺院であった。一山を代表する支配職は、真言方は宝蔵院・華蔵院、天台方は最上院の3ヵ院で、所属の院坊をまとめ、幕府など大檀那への年礼を主とした。現在は3ヵ院17坊が一山を支える。寒河江市慈恩寺

■宝蔵院 言宗 真言方学頭

配当高109石余。学頭1、衆徒11院坊、家来8、借地6、102軒、ほか末寺、本道寺・大日寺など21。(享保6年『拝領高并人数帳写』)胎蔵界大日如来坐像、金剛界大日如来坐像、不動明王像多数、千手観音立像、地蔵菩薩立像、軍荼利明王立像、竹内坊文書などを保有。



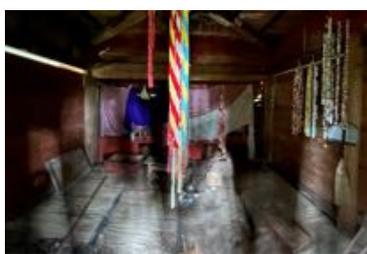
■華蔵院 真言宗 真言方学頭

配当高219石余。学頭1 院坊11、末寺7。(文政12年『華蔵院本末改帳』)不動明王立像多数、三十三観音像、胎蔵界曼荼羅、八大高僧図、仏典・経典などを保有。

●慈恩寺は2014年に国の史跡に指定された。興味深いのは慈恩寺を支配する三ヵ院のうち真言系の2ヵ院（宝蔵院と華蔵院）の屋根を通った。慈恩寺は歴史に翻弄され真言宗・天台宗兼学の寺院となっているが元々は真言宗である。この祭祀線のためにこの位置に建てたのではないか。

●黒森雷神社には、かつては菅原道真公の板絵もあったと聞いた。このあたりの多くの神社は大谷天満宮の白田家（菅原道真の側室一統）が関わっている。大朝日岳の遥拝神社の金輪寺に慈恩寺の神気を引き寄せるために黒森に雷神社を置いたのだと思われる。これで最強シフトの祭祀線になった。

●20年ぶりに黒森の雷神社を訪ねてみた。随神門前の鳥居は倒れ、社殿は朽ち、床は落ち、廃神社となっていた。1000年以上の歴史の終わりの時を労う思いでしっかり見届けてきた。



6. 宝満山

●そして、決定的な祭祀線を見つけた。

道真公が太宰府に左遷されてからのことを調べていると、サイト「ふくはく鎮守の伝説紀行」さんのNo.044の菅公を看取った神牛の記事が目にとまった。以下に一部抜粋。

道真は、亡くなる数日前に安行を枕元に呼んだ。「もう都には帰りたくないな」と一言喋るとすぐにいびきをかいた。菅公が都に帰りたくないわけは、政敵との闘いに疲れたこともあるが、それ以上に留守宅をまもる妻が亡くなった知らせを受けたばかりだったからだ。「紅姫さまは貴方だけを頼りに、必死で生きておられますよ」と、安行が励まそうとするが、うつろな目で館の窓から東方を見つめたままである。「我れは、都になんの未練もない。我れが死んだら、あの高い山の何処かに、頭を東に向けて埋めてくれ」。身体だけではなく、生きる気持ちさえなくした道真が、最期に残した願いごとであった。菅公が指をさした先に見えるのは、宝満山である。それから間もなくして菅公は、紅姫と安行らを残して、二度と戻れない世界に旅立ったのであった。

●宝満山がとても気になった。なぜ道真公が望んだのは天拝山ではなく宝満山だったのか。大極殿とつながっていた日吉神社と歴史のある宝満山山頂にある竈門神社上宮をつなげてみた。



■市ノ瀬日吉神社 →→→ 榎社→→→ 竈門神社上宮

●すると、榎社の境内を通った。ここは道真公の屋敷跡だった場所。発掘した屋敷跡からは茶碗にアクを入れて重ねた祭祀の道具らしきものが見つかったらしい。また太宰府天満宮の菖蒲池も通っている。いきなりレアな祭祀線が引けて驚いた。出雲王家の宗像家が祀ったであろう八百万の神の竈門神社と出雲三神の柱猿田彦命の日吉神社に挟まれて道真公は祭祀をしていた。道真公はこの位置がわかっていてこの屋敷に住むことを要望したのだろうか。

■竈門神社

式内社。宝満山は大宰府の鬼門（東北）の位置にあることから、当社は「大宰府鎮護の神」として崇敬された。平安時代以降は神仏習合が進み、当社と一体化した神宮寺の大山寺、竈門山寺・有智山寺とも）は、西国の天台宗寺院では代表的な存在であった。また、宝満山には英彦山とともに修験道の有数の道場が形成されたが、明治期にこれらの仏教施設は廃された。しかしながら、今なお福岡県下には当社から勧請された約 40 社の神社があり、現在も宝満山に対する信仰・縁むすび信仰により崇拝されている神社である。



社伝では、天智天皇の代（668 年-672 年）に大宰府が現在地に遷された際、鬼門（東北）に位置する宝満山に大宰府鎮護のため八百万の神々を祀ったのが神祭の始まりという。次いで天武天皇 2 年（673 年）、心蓮（しんれん）上人が山中で修行していると玉依姫命が現れたため、心蓮が朝廷に奏聞し山頂に上宮が建てられたという。神社側では、この時をもって当社の創建としている。

これらの社伝の真偽は明らかではないが、下宮礎石群の調査から創建は 8 世紀後半には遡るとされる。また上宮付近からは、9 世紀から中世にまで至る、多くの土師器・皇朝銭等の祭祀遺物が検出されており、大宰府・遣唐使との関連も指摘される。社伝に見られるように、当社の歴史は大宰府と深い関係を持ちつつ展開する。一方で、玉依姫命の「水分の神」としての性格から、御笠川・宝満川の水源の神として自然発生的に玉依姫命が祀られていたと推測し、その後政治的な神格が与えられたと見る説もある。上宮は「鬼滅の刃（きめつのやいば）」の聖地となっている。

■榎社

榎社は、太宰府天満宮（もとは天原山安楽寺）境内飛地にある神社。菅原道真が、901 年（昌泰 4 年・延喜元年）に大宰府に左遷されてから 903 年（延喜 3 年）に逝去するまで謫居した跡で、当時、府の南館であったといわれる。1023 年（治安 3 年）、大宰大貳・藤原惟憲が道真の霊を弔うために浄妙院を建立したのが始まりで、境内に榎の大樹があったのでいつしか榎寺（えのきでら）と呼ばれるようになった。2016 年（平成 28 年）には、境内の発掘調査において 9



世紀後半 - 10 世紀初頭頃の掘立柱建物の遺構が検出されており、菅原道真の晩年期と同時期の建物跡として対応関係が注目されている。主祭神は道真を日夜世話したという浄妙尼（もろ尼御前）
福岡県太宰府市朱雀六丁目

●この場所で祭祀をしていたとすれば、他とも繋がっているはず。先のラインが通るあたりを起点にして探してみた。すると歴史ある筑前国分寺とつながった。



■筑前国分寺 6.167km ←←← 竈門神社上宮 →→→ 浄妙尼社の近く 6.167km
 国分天満宮 6.167km ←←←



●ということで、道真公が祭祀をしていた屋敷はこの位置にあったはず↓



■筑前国分寺

太宰府政庁跡から北西方の台地上に位置し、現在の国分寺は創建時の僧寺跡と重複する。その西方には尼寺跡が、東方には両寺の瓦を焼いた瓦窯跡が残っている。聖武天皇の詔による建立とされるが、創建の記録は残っていない。古くは、延暦20年(801年)に四王院から仏像・法具が「筑前金光明寺」に移されたという記録がある(大同2年(807年)に元に戻す)。『延喜式』での筑前国分寺料は32,293束。その後、江戸時代中期には寺は廃絶していた。



江戸時代後期に入ると薬師如来を安置する堂と小庵があったと文書に記されているが、これは後継の現・国分寺と見られる。その後継国分寺の歴史について、寺伝では、江戸時代には創建時の国分寺は廃絶していたが、江戸から来た修行僧が国分寺の廃絶を嘆いて小庵を結んだという。太宰府市国分4丁目13-1

■国分天満宮

かつての「ムラ」の住民により祀られています。祭神は菅原道真です。お宮の成立年代や由緒については詳しく分かっていませんが、本殿に「弘化(1844~1847)甲□□□三月吉日」とあることから、およそ170年前から祀られていることが分かります。また、明治5年(1872)に村社に定められたという記録が残っています。太宰府市国分4丁目735



※写真はきさらぎのてげてげブログさんより拝借

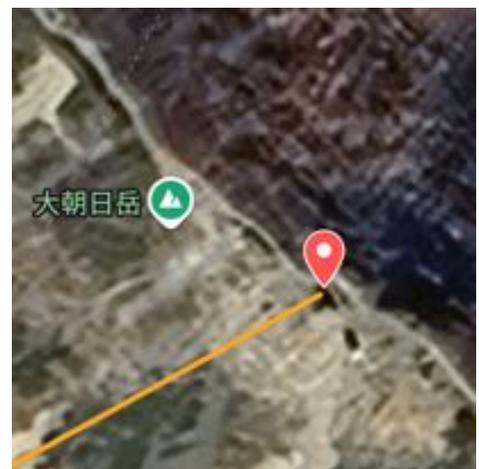
●さて、まさかとは思いつつ…

■市ノ瀬日吉神社 →→→ 榎社 →→→ 竈門神社上宮 →→→ どこへ?

このラインがどこかにつながるのうか?

いちおう伸ばしてみた。

すると…





■市ノ瀬日吉神社 →→→ 榎社 紅姫供養塔 →→→ 宝満山城址 →→→ 大朝日岳頂上三角点



●榎社 紅姫供養塔を通り、竈門神社上宮から 20m ほどズレたが大朝日岳頂上につながった。道真公は命あるうちから、日吉神社や竈門神社の神気を使って直接大朝日岳の大龍に祈願していた。

●大朝日岳・大沼浮島を基点として、北九州に聖地を置き、その真ん中に奈良や京都に都作りを行ったのだと思う。おそらく出雲王国が大和にあった時代から大朝日岳・大沼とつなげていたのではないだろうか。戦いたくない出雲族たちは敗れたものの、平和を重んじ、その後も天孫族に協力して国家の安寧のために祭祀線を施したのではないだろうか。それなのに…と、道真公とその一族郎党の無念さが伝わってきて泣けてしまう。ただ、これで終わりではない。まもなく怨霊菅原道真公をバックに付けた平将門公が動く。詳しくは別頁「平将門の乱」をぜひご覧いただきたい。



●大きな役割を一つ果たせたようでホッとした。(2025.6.5 竜天太陽 記)